プロレタリア通信 No.3

入試粉砕后の斗いの方向と組織方針

入試粉砕実現段階の階級的位置

入試は粉砕された。東大斗争の現点として斗われた一、一八～一九連続斗争＝安田－神田＝は、国家权力を恐怖に叩き込み、遂に入試中止決定に追い込んだ。入試粉砕战術を追求する战術次元の攻防をわれわれは明確に一つの局面を突破し、あらたな攻防局面を切り開いた。即ち、权力を战術的に一歩追い込むことに成功した。同時に、入試粉砕は、加トー日共－秩序派の三者体制維持連合の結集点（入試再開）を崩壊させ、十項目確認の焦点（杉劫隊導入しない）をも形骸化させ、体制防位三者連合にあらたな再編を迫り、彼等を一歩後退に追い込んだ。

战術的意味における入試粉砕の実現は、われわれの战術的勝利として確認しうる。しかし、現局面における战術的勝利は、東大斗争が日帝のアジア侵略反革命に照応する武装秩構と全社会秩序の帝国主義的再編の環としてある以上、日本階級斗争の階級関係総体の中で战略的に把握されなければならない。即ち入試粉砕に追い込んだわれわれと、これに屈服し入試中止を決定した国家权力と、あくまでも現状秩序回服を叫ぶ体制維持派の、入試が中止された後のあらたな局面における战略的位置を見抜き、われわれの帝国主義秩序への改編＝大学院大学化路線粉砕斗争への方針を「組織方針」として確定しなければならない。

入試中止後の国家权力

国家权力は、われわれの斗いによって、現状秩序に東大を回復させることが出来ないことを見込き、東大に象徴された矛盾が、大学制度の根本的矛盾であることと、そこから日本階級斗争の最も尖鋭な部隊－組織された暴力部隊－全学連が恒常的連続的に再生産されていることに恐怖し、この全国的な革命の陣地の根元的粉砕を東大入試中止を契機としてつくり出そうとしているのである。だから国家权力は、東大斗争を個別学園民主化斗争の枠内に集約せんとする加藤－日共－秩序派の現状体制維持連合の低い战略即ち民青ベースでの集約を拒否し、これを越えた战略として対応してくるのだ。即ち、単なる学園問題としてではなく治安問題として対決し、革命的左翼総体の战略部隊形成の革命陣地－大学自治－自治会を根底から破壊する契機をつかもうとしている。

全社会の帝国主義秩序への改編の環は、階級関係の環＝权力との直接階級攻防を形成する革命的左翼の運動＝の破壊からはじまるのは当然である。

われわれは、67・10・8以降、68・10・21まで日帝の侵略反革命総路線に対決し、日本階級斗争の前面に立ち、权力と社共との関係に代って「权力とわれわれ」との攻防関係を階級関係総体の軸に押し上げてきたが、权力は68・10・21以降、特に、11・22を契機にわれわれの組織と運動を全面的に破壊することを狙ってきた。彼等は68・11・22以降、加トー日共－秩序派の三者連合を政治的補助部隊に使い、まずわれわれの政治的孤立と粉砕を狙い、就中、日共－民青のゲバルト部隊を革命的左翼と衝突させ、両者の消耗と共倒れをまって、まずわれわれ革命的左翼の運動を押え粉砕して、続いて日共をも粉砕することを狙っているのである。

1・18～19以降三月までの权力の攻撃の意図は、入試中止で第一の結集点を失った日共が、加トをまき込みつつ、入試復活－授業再開－卒試実施で体制維持派の結集を計り、革命的左翼全体との激突を再びくりかえし共倒れするのを待つこと、そして一挙に組織破壊をかけることである。そして三月時点で大学院大学等、学校－教育制度全般に至る体系的な帝国主義再編プランを打ち出すであろう。权力は東大斗争を契機に三月に至る局面で、わが同盟を先頭とする革命的左翼に対するカイ滅的決着をつけようとしているのだ!!

八試中止決定后の日共の戦術

彼らは、八試闘争で斗い、現状秩序の枠内に止め得るならば、体制的従で権力と休戦し、トロを東大斗争で粉砕し、この路線を一挙に全国化し、権力との体制的休戦ラインの内側で、全国的トロ掃とう反革命戦に勝利し得るとの戦略を立てていた後、我々の斗いによって戦略の前提的一角は崩れ、一歩后退し再結集を計らなければならなくなった。

と同時に、国家権力は、日共がトロを攻撃している面は体制防衛の休戦ラインから日共の攻撃を傍観しているが、権力は加七と部隊、即ち日共との暗黙の協定などは守らず、権力の戦略的意図から八試再開を拒否したことを知らされ、政治的再結集へ入る。

八試が粉砕されて、最大のピンチに立ったのは加七である。日共は、一歩后退したとはいえ、7、18－19の我々の大衆斗争高揚に追い込まれたとはいえ、政治的反動と組織戦によるトロ再攻撃に出てくる。

日共は、八試中止後市民社会にもたらす現状維持意識に乗りつつ、政治的には社会－公明の反自民党勢力との連合を形成し、八試復活の要求を国会政治の舞台に移す。国会で反自民党の八試の復活要求を形成し、東大では八試復活をかかげつつ、授業再開－卒試実現で分解する秩序派勢力を再結集し、ゲバルト部隊の組織化をもってトロ排除↓東大制圧↓十項目の実施を追求してくる。こうして、日共は斗いを組織戦として[illegible]してくるのである。

日共と我々との攻防は、組織戦ゲバルトに基軸としながら、権力の帝国主義再編と対決する我々の反帝斗争と、現状秩序擁護を目指す日共体制防衛の反政府斗争に焦点を移る。

我々は、7、18－19で切り開いた局面から一歩でも后退すれば、日共の反政府斗争に集約されつつ権力に我々は粉砕されるだろう。我々は断呼たる反撃を全都全国に、四月斗争の反撃と組織戦を軸に切り開かなければならない。

我々の方針

我々革命的左翼は、その精鋭主力を7、18－19に投入することによって局面戦術的勝利を獲得し、日共を一歩后退に追い込む契機をつかんだ。

だが同時に、権力との階級関係は、ますます緊張し、70

・70以后の階級関係をより具体的実践課題とした。

ここから確定される我々の戦略は、「口通№2」が示す、権力の帝国主義再編の環－大学院大学の粉砕である。そして、東大全共斗は①加七退陣②機動隊八粉砕③七試ボイコット④大学院大学粉砕をかかげ東大奪還を追求し、大衆結集を計らねばならない。

我々の全国的任務は何か！ 7、18－19の東大安田＝神田バリケード・マッセンストを全国的に拡大し、三月までに全国的な70年安保の革命拠点をつくりあげ、全面反撃に出ることである。全国に共斗会議を直ちにつくり、全国三月入試を阻止し、全国的反撃を展開せよ！

以上の方針を、次の組織方針として具体化せよ！

①東大・中大・日大を軸とする首都十大学共斗を恒常的斗争機関とし、京大共斗会議等全国の共斗会議を結集し、「全国共斗会議」を結成、全国指導体制を確立せよ！

全国各地の共斗会議は全国共斗会議に加盟し、学園占拠等一切の全国指導を受けよ！

②現在、東大全共斗会議は、自民党との緊張関係から大衆を公然と結集し得ない。東大生を全国共斗会議に結集し、東大全共斗の指導下に組織せよ！

③このために統一戦線担当部門担当及び学対代表同志は、二七日までに諸党派オルグを完了し、書記局、学対は全都全国の斗争激発の全国オルグに飛べ！

④中大SOBは、以上の組織方針を具体化するため、全国共斗会議の事務局を中大に於いて実務的に担う体制を固め、日大共斗・東大共斗のオルグを行い、全都－全国の共斗会議の学園占拠指揮部を形成せよ！

⑤「全国共斗会議」は、結成準備を整える過程で全国大学に斗争指令を発せよ！

我々は、東大・日大・中大・京大の斗いの貢を全国化し、総反撃体制を整えて、7、18－19で切り開き、つかんだ反撃の契機を全面攻撃に転化せよ！

東大奪還斗争に向けてのゲリラを、東大全共斗に結集する部隊を中心に、二月四日[illegible]、二月四日に全都総結集のために[illegible]、安保の焦点＝沖縄を斗い抜く全国的反撃の開始の日とせよ！

安保－沖縄－東大を斗い抜く、二月四日に向けて全都の党組織は、駅頭・街頭で宣伝戦を開始せよ！